

# 「SIM熊本2030」とは

平成26年10月25日 熊本大学政経研公共政策コンペ  
対話型シミュレーションゲーム「SIM熊本2030」を活用したまちづくりのカタチづくり

【2030年問題】 戦後に生まれた団塊の世代が高齢化し、2025年頃から75歳以上の後期高齢者世代に突入し始める。日本の人口構成も、図1のようにピラミッドの上層部分が大きくなり、2030年には、3人に1人が65歳以上の高齢者と言われるほど、高齢者率の上昇が予想されている。

【限りある財源】 人口減による税収減、高齢化による社会保障費増。これまで「あれも、これも」様々な政策を実施していたが、これから「あれか、これか」の選択を迫られる時代となる。

【様々な対立】 選択の過程で、様々な対立が生じてくる。

【対話が苦手】 大事なことが分かって、対立を伴うような対話は苦手である。多様な問題を自分のこととして捉え、参加することが大事だと思ってもハードルが高い。

高齢者区若者 都市と山間部

リアルに「体験」 「体験」を共有 参加の「ハードル」を下げる

今後起こる地域の課題をシミュレーションし、何が起るかを体験しながら、選択の過程で生じる対立に寄り添って体験を「ゲーム化」することで、これらの現状（課題）を解決し、様々な地域、様々な立場が一体となったまちづくりを行う場を創り上げる。

対話型シミュレーションゲーム

【ゲーム説明】 高齢化による社会保障に必要な予算が増え続けるなか、何の予算を落とす、何の予算を残していくか。そして、残した予算、事業でいかに幸せな街を作っていくか。プレイヤーは1組で架空都市ウツナマ市の市長に就任し、2030年までの五年ごとに迫る課題に対して、他の部長と対話し、「市としての判断」を下していく。

①各部長には予算と1枚1億円規模の事業カードが配られる。

②迫りくる時間制限の中で、限りある財源をどう扱うか。どんな選択を行い、どの事業を廃止するか。どういった影響が生じて、どう対応するか。事業カードを具体的にどう運用するか。

【事業カード例】

総務 (200)	消防 (100)
企業 (100)	福祉 (40)
100歳未満 (100)	100歳以上 (100)
土木 (100)	農工 (100)
農政 (100)	

企業部：IT行政の推進事業、まちづくり（地域づくり）補助金  
健康部：子どもの医療費補助事業、健康づくり推進事業  
農工部：企業経営補助金、ゆるキャラ活動補助費、新規就農のイノベーション事業  
農政部：高齢農家対策事業、産地別しずく事業  
土木部：多量雨水対策事業、防災対策事業、重点河川整備事業  
健康部：（※数値的経費はなく、関係各課の協力を得て行う想定。）

■各都の予算はほとんどが義務的経費であり、自身の予算は各都々々3億円（事業カードの枚数）のみ。  
■人口減少に伴って各都の人口も減り、収入も減り、支出は5年ごとに1億円ずつ増える。  
■反対に、高齢化の進行に伴い、社会保障経費は5年ごとに1億円ずつ増加する。

■突っ込んだ課題に対して、他の部長と対話し、「市としての判断」を決めなければならない。  
■予算が足りなくなると、事業カードの枚数を減らさなければならない。  
■部長自身の所属する事業カードの具体的な運用方針（カードの仕組みや内容）を決めることができる。

①最終となるのは各都 5～40 億円の予算と、1枚 1 億円の事業カード。そしてチームの知識と知恵と協力。あとは決断をくだす勇氣。誰々と誰と続ける時間を前に、最終的議論は出来る。時代の流れに合わせた事業カードは複数枚のカードを持つ。制限時間内に「市としての判断」及び「財源再配分案の決定」、「それに伴う各都への対応案の説明」ができれば、住居の反応をばらばら（借金）で対応すること、そのバリエーションが5億円に達した場合は、財政救済（ゲームオーバー）となる。選ばれる事もある出来なし。基本的には、借入を増やしてはダメ。ひたすら事業を落とす続けるのみ。最終、最終する事もある厳しい状況の中、どと突っ込むものがある。さて、あなたの市は、どんな街を目指していきますか？

【制作者として気づいたこと／参加者に気づいてほしいこと】

- 多様性（他人の意見や幸せのカタチ）を認めることで、未来の幅が広がる。
- 未来を悲観することはない、残ったものが増えることに気づくことができれば、その強みを自分たちの地域の武器にできる。
- これから迫り来る社会の変化を知り、変化に向き合っていくことで未来をリードできる。

【対話の広がり】

平成26年8月 熊本県庁の中心ホールにグループ協賛費を活用して対話型シミュレーションゲーム「SIM熊本2030」を開催（3.2名参加）  
平成26年9月 上益城郡高瀬町（熊本市外）で開催（1.0名参加）  
平成26年9月 九十九町センター（熊本市）で開催（5.0名参加）  
平成26年9月 熊本市市庁（熊本市）で開催（3.5名参加）  
平成26年10月 熊本市市庁（熊本市）で開催（1.0名参加）  
平成26年11月 宇都宮市市庁（栃木県）で開催（2.4名参加）  
色、熊本市市庁、高瀬町市庁の共同開催の開催

一般向けのライターも制作中！

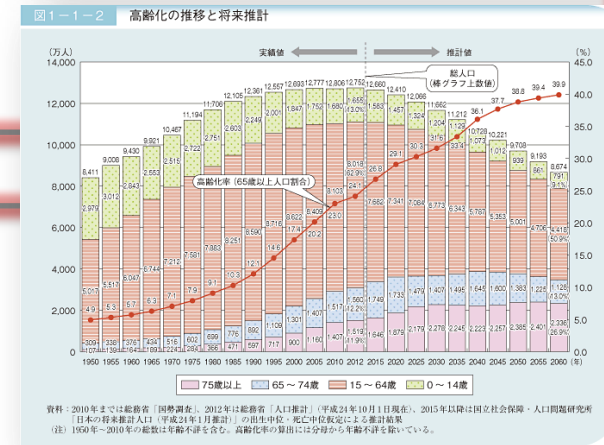
- 熊本県庁職員の自主活動グループ「くまもとSMILEネット」が平成25年8月から約5ヵ月で自主開発した、2030年問題を体感する「対話型自治体経営シミュレーションゲーム」。
- 今後直面する課題について、対話の中で解決策・方向性を導き出していくものであり、自治体職員・まちづくり関係者等の間でSIMファンが増加中。



ゲームの様子

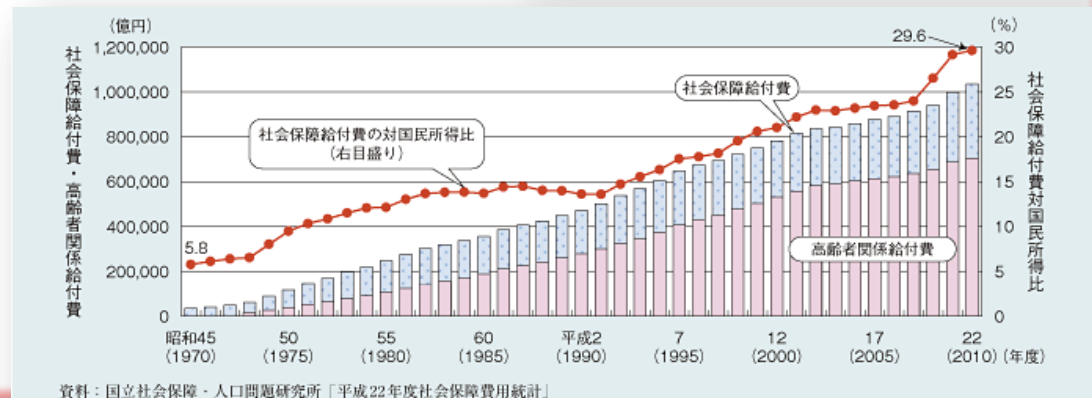
# 【2030年問題】

**戦**後に生まれた団塊の世代が**高齢化**し、2025年頃から75歳以上の後期高齢者世代に突入し始める。日本の人口構成も、図1のようにピラミッドの上層部分が大きくなり、2030年には、3人に1人が65歳以上の高齢者と言われるほど、高齢者率の上昇が予想されている。



# 【限りある財源】

**人**口減による**税収減**、高齢化による**社会保障費増**。これまで「あれも、これも」と様々な政策を実施していたが、これから「あれか、これか」の選択を迫られる時代となる。





## 【様々な対立】

**選**択の過程で、様々な**対立**が生じてくる。



高齢者 × 若者



都市 × 山間部

## 【対話が苦手】



**大**事なことと分かってても、対立を伴うような**対話**は苦手である。多様な問題を自分のこととして捉え、参加することが大事だと思っけていてもハードルが高い。

今後起こりうる地域の課題をシミュレーションし、何が起きるかを**体感**しながら、選択の過程で生じる対立を**対話**により乗り越える体験を「ゲーミフィケーション（＝ゲーム化）」することで、これらの現状（隘路）を解決し、様々な世代、様々な地域、多様な立場が一体となったまちづくりを行う“場”を創り上げる。

リアルに“体感”

“体験”を共有

参加の“ハードル”を下げる

対話型シミュレーションゲーム

SIN熊本2030

新たなつながり ~Lead The Next Society~

# 【ゲーム説明】

高齢化により社会保障に必要な予算が増え続けるなか、何の予算を落とし、何の予算を残していくか。そして、残された予算・事業でいかに幸せな街を作っていくか。

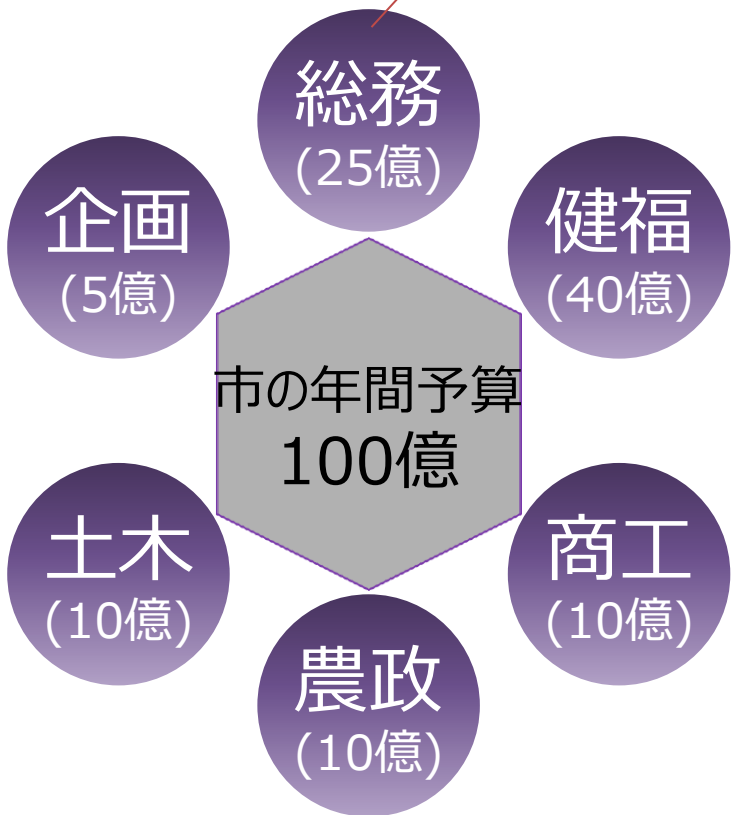
プレイヤーは6人1組で架空都市〇〇市の部長に就任し、2030年までの5年ごとに迫りくる課題に対して、他の部長と対話し、「市としての判断」を下していく。





# ①各部長には予算と1枚1億円規模の事業カードが配られる。

(うち公債費15億円)



## 【事業カード例】

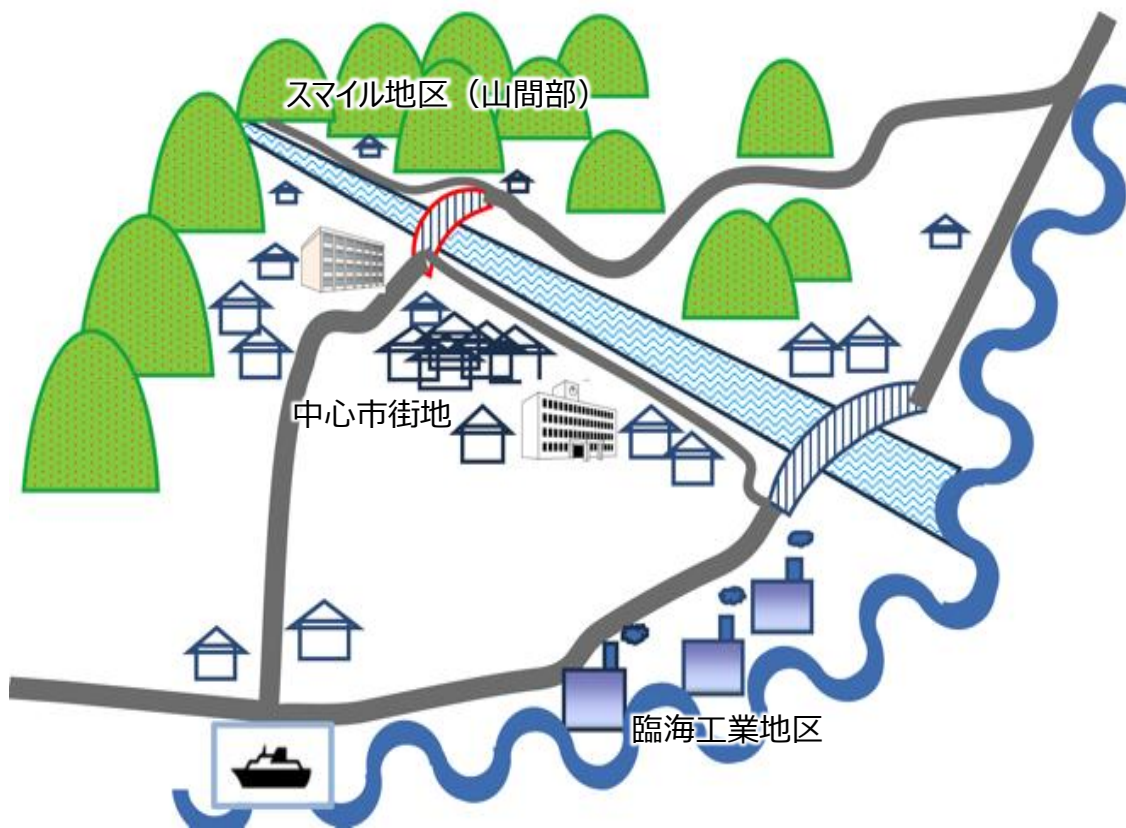
- 企画部：IT行政の推進事業、まちづくり（地域づくり）補助金
- 健福部：子ども医療費補助事業、健康づくり支援事業
- 商工部：企業誘致補助金、ゆるキャラ活動委託費、販路拡大のイベント事業
- 農政部：有害鳥獣対策事業、農業担い手育成事業、新品種開発の補助事業
- 土木部：歩道バリアフリー事業、防災対策事業、重点港湾整備事業
- 総務部：（※裁量的経費はなく、部長会議の調整役を担ってもらう設定。）

② 迫りくる時間制限の中で、限りある財源をどう扱うか。どんな選択を行い、どの事業を廃止するか。どういった影響が生じて、どう対応するか。事業カードを具体的にどう運用するか。

Q. 中山間に通じる橋の更新時期が到来。  
当該道路は集落につながる大事な生命線であり要望も大きい。  
補修費は1億円。  
さて、どうする？



A. 補修する    B. 補修しない



③武器となるのは各部 5 ～ 4 0 億円の予算と、1 枚 1 億円の事業カード、そしてチームの知識と知恵と協力と、あとは決断をくだす勇氣。

刻々と進み続ける時計を前に、悠長な議論は出来ず、時代が進むにつれて事業カードは容赦なく減り続ける。

制限時間内に「市としての判断」及び「捻出元事業の決定」、「それに伴う影響への対応策の説明」ができれば、住民の反発を招き、その費用負担は赤字債（借金）で対応することとし、そのペナルティが総額 5 億円に達した場合は、財政破綻（ゲームオーバー）となる。逃げる事はもう出来ない。基本的に、歳入を増やす手だてが無く、ひたすら事業を落とし続けるのみ。終盤、絶望すら感じることもある厳しい状況の中、ふと気づくものがある。さて、あなたの市は、どんな選択をして、どんな街を目指していきますか？



# 未来を2つに分けてゲームに組み込む

## すでに起こった未来

### 前提条件

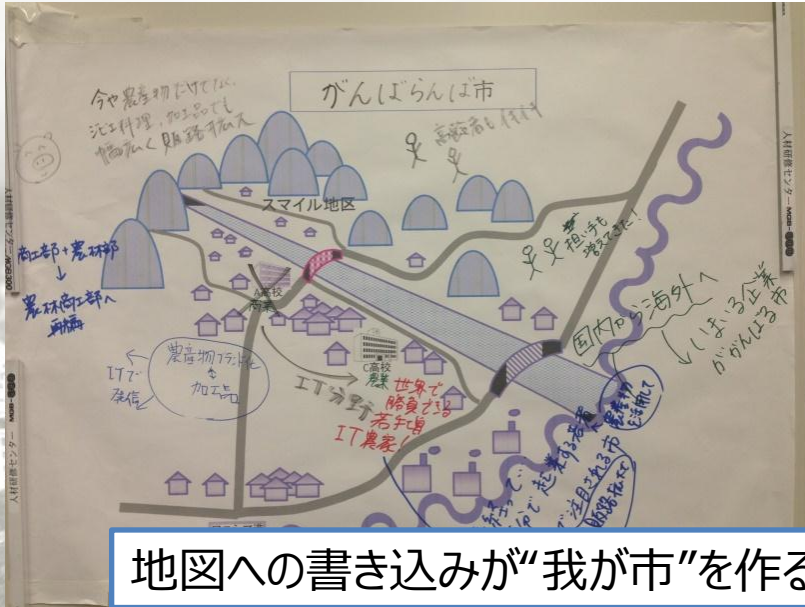
- 各部の予算はほとんどが義務的経費であり、  
裁量のある経費は各部 2 ~ 3 億円 (事業カードの枚数) のみ。
- 人口減少により労働力人口・消費者人口も減少し、  
税金は 5 年ごとに 1 億円ずつ下がる。
- 反対に、高齢化の進行により、  
社会保障経費は 5 年ごとに 1 億円ずつ増加する。

## これから創る未来

### 選択肢

- 突きつけられた課題に対して、  
他の部長と対話し、「市としての判断」を決めなければならない。
- 減り続ける財源に対応するため、  
事業カードのどれかを廃止して、財源を確保しなければならない。
- 部長は自らの所管する事業カードの具体的な運用方針 (カードの詳細な内容) を決めることができる。

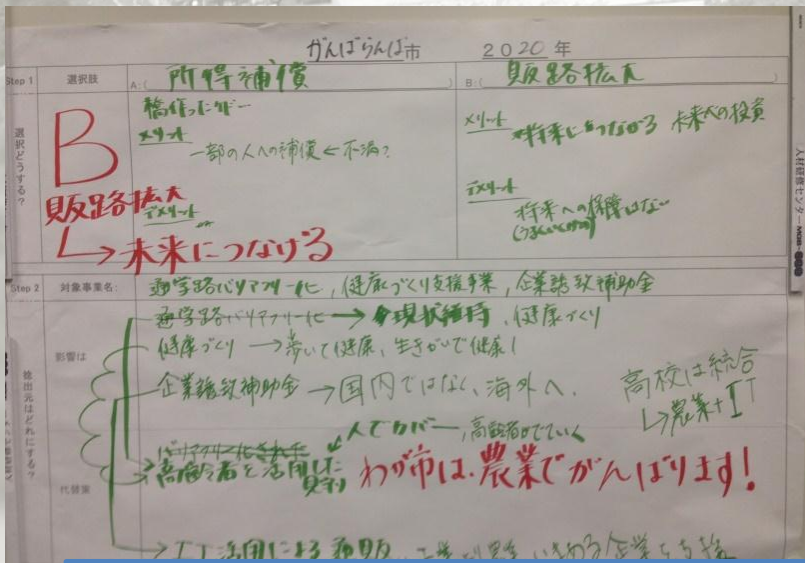
# 【開催例】第3回九州まちづくりOM“九州交流カフェ” in 熊本



地図への書き込みが“我が市”を作る



異なる自治体の職員が一緒にまちづくりを考える



議論の内容を模造紙に記録し見える化

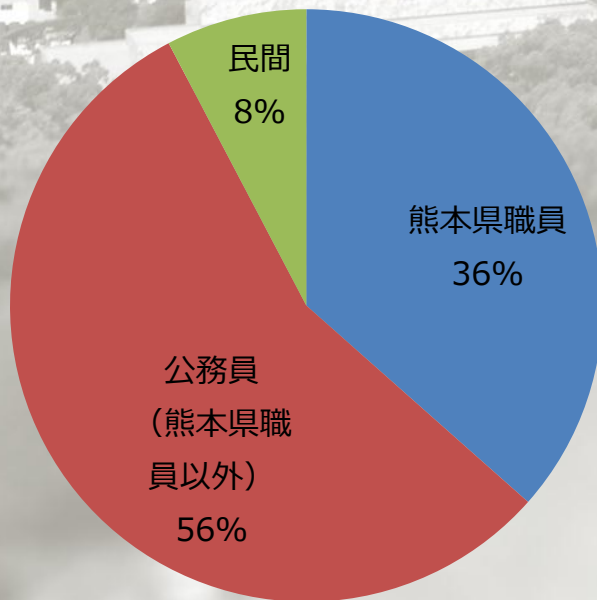


打ち解けるための“おやつ”と“遊び心”

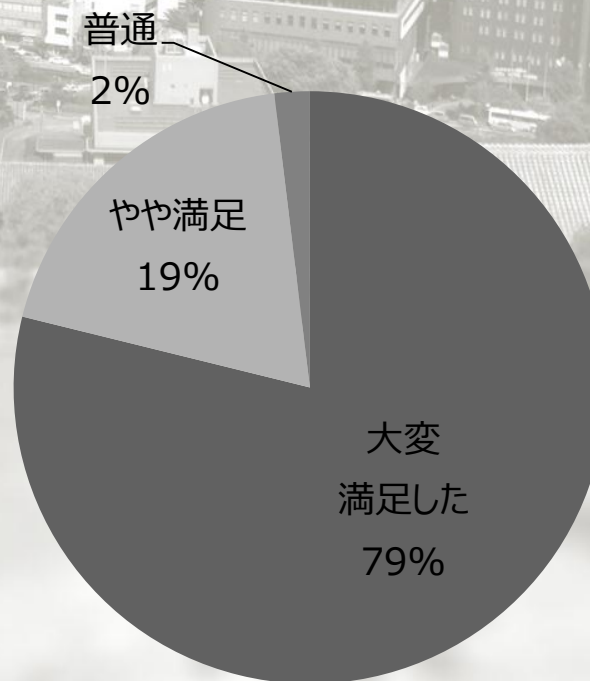
# 参加後の感想（満足度）

区分	回答者数	5 大変満足した	4 やや満足	3 普通	2 やや不満	1 不満	平均点
1 熊本県職員	19	11	8	0	0	0	4.58
2 公務員（熊本県職員以外）	29	27	2	0	0	0	4.93
3 民間	4	3	0	1	0	0	4.50
<b>全体</b>	<b>52</b>	<b>41</b>	<b>10</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>4.77</b>

参加者比率



満足度（全体）









# 対話の広がり

- 平成25年 8月 熊本県庁の自主活動支援制度を活用して制作開始。5ヵ月間で開発。
- 平成26年 1月 熊本県庁で県職員・県内市町村職員向けに第1回開催（32名参加）
- 平成26年 2月 上益城地域振興局（管内市町村勉強会）で開催（10名参加）
- 平成26年 8月 九州オフサイトミーティングin熊本で開催（50名参加）
- 平成26年 8月 諫早市役所（長崎）で開催（35参加）
- 平成26年10月 熊本県で庁内外の希望者向け体験会を開催（10組織から24名参加）
- 平成26年11月 福岡市役所が体験会を開催（12名参加）
- 熊本の市民大学マチナカレッジで一般向け講座として開催（30名参加）
- 平成27年 1月 熊本市役所で開催（18名参加）、人吉市役所で開催（10名参加）
- 平成27年 2月 諫早市役所で年齢別・役職別のチーム編成で開催（12名参加）
- 平成27年 4月 福岡市役所の新人研修の1コマとして簡易版を実施（300名参加）
- 熊本県で庁内外の希望者向け体験会を開催（6組織から20名参加）
- 平成27年 6月 水俣市役所で開催（11名参加）
- 平成27年 7月 福岡県庁×春日市で共同開催（29名参加）
- 大津町(熊本)で青年会議所主催のカスタマイズ版を開催（20名参加）
- 平成27年 8月 「SIM熊本2030体験会IN関東」を開催（44名参加）
- 「財政出前講座×SIM」のコラボ版を延岡市で開催（50名参加）

H26.8.9 SIM熊本2030 IN 九州OM



H27.8.1 SIM体験会 IN 関東





# 「くまもとSMILEネット」

「県職員のミッションは県民を笑顔にすること」  
「まずは、自分たち県職員が笑顔になること  
で、県民に笑顔（元気）を届ける存在に  
なろう！」  
「そのために、自分たちで1歩を踏み出そう！」  
と平成22年9月に職員有志で結成した自主  
活動グループ。

現在45人程度のメンバーが参加。

定期的なダイアログ（対話）を通じて、年始  
のハイタッチ、退職予定者とのワールドカフェ  
（暗黙知の伝承）、採用PRムービー制作な  
ど様々な場づくり、プロジェクトを展開中。

